

## マーケット概況（2023年7月）

7月の債券相場は、6月末に発表された日銀オペ運営方針で買入額が維持されたことで買いが先行し、債券先物9月限は前月末比5銭高の148円60銭で取引を開始した。10年債入札が好調な結果となったことから堅調に推移し、10年371回債は0.380%まで利回りが低下し、債券先物9月限は148円85銭まで上昇した。しかし、30年債入札が低調な結果だったことから下落に転じ、米国の各種雇用関連指標が市場予想を上回り利上げ懸念が強まったことで米国債利回りが4%を超えて上昇すると本邦市場も下げ幅を拡大した。10日の5年超10年以下の買入オペオファー額が6,750億円に増額され、5年債入札も好調な結果となったが、日銀の政策修正に対する警戒感から軟調地合いは継続した。日銀総裁が会見で物価目標の達成に距離がある認識を示し、複数の報道機関が28日の日銀金融政策決定会合では政策の現状維持が決まる公算が大きいとの見方を示したことで切り返したが、月末には同会合でYCCの修正案を議論すると報じられたことから急落した。実際に日銀がYCCの運用の柔軟化を決定し、指値オペの買入利回り水準を0.5%から1.0%に引き上げると一段安となり、債券先物9月限は一時146円65銭まで下落し、10年371回債の利回りはカレントとして2014年6月以来の水準となる0.605%まで上昇した。

### <短国市場>

3M金利は7日入札の3M1168回債より発行額が5,000億円の減額となったことも要因し、最高落札利回りは-0.12%台に低下しスタートした。14日入札の3M1169回債では投資家需要に支えられ、セカンダリー市場では-0.150%まで金利低下となったが、買いが一巡すると徐々に金利上昇の流れとなり、月末入札の3M1172回債では-0.100%で取引を終えた。年末越え償還の6M1167回債入札は、投資家の玉確保姿勢が先行し最高落札利回り-0.1744%と好調な結果となり、セカンダリー市場では-0.200%まで低下し取引された。1Y1170回債入札は月末の日銀金融政策決定会合を控えて様子見姿勢が強く、最高落札利回りは-0.1109%と前回債から上昇した。入札後は積極的な買いが見えず、-0.12%台で取引を終えた。

### <一般債市場>

7月の定例地方債の10年債は、堅調な投資家需要を背景にスプレッドのタイト化が継続し、前月対比4bpタイト化の国債対比+21.0bpとなる一方、5年債は国債金利が低下したことから絶対値を意識する投資家も多く前月比変わらずのカーブ+13.0bpで条件決定した。SDGs債関連では、NTTファイナンス債4本立てGBは、国内SDGs債としてはこれまで最大だった同社前回3本立て債(計3,000億円)を上回る総額3,800億円起債された。社債発行額は、前述のNTTファイナンス債に加え、みずほFGがAT1債を起債するなど金融セクターの起債が活発となり、発行銘柄数88件、発行額2兆3,061億円といずれも前月から増加した。

### ◎ 主要債券月間四本値

銘柄	始値	高値	安値	最終出来値
#371	0.430(4日)	0.380(5日)	0.605(31日)	0.595(31日)
#370	0.390(1日)	0.355(5日)	0.585(31日)	0.580(31日)
#360	0.210(3日)	0.190(5日)	0.390(31日)	0.390(31日)
#158-#159(5Y)	0.055(3日)	0.055(3日)	0.185(31日)	0.170(31日)
#184-#185(20Y)	0.985(3日)	0.965(6日)	1.240(31日)	1.235(31日)
#1161-#1167 TDB(6M)	-0.200(6日)	-0.200(6日)	-0.200(6日)	-0.200(6日)
#1166-#1172 TDB(3M)	-0.134(3日)	-0.156(7日)	-0.100(27日)	-0.100(27日)